

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

税理士法人 優和

経営者への活きた言葉

TEL 03-3455-6666
FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

国際的な場で活躍するため必要な 3 つの能力

茂木 友三郎（キックマン取締役名誉会長・取締役会議長）

1. 国際的な場で活躍する人に必要な能力は大きく 3 つある。「専門能力」「異文化への適応性」「語学力」だ。またその大前提として「教養豊かであること」も重要だ。日本国内でも見識のない発言を続けていけば人から信用されなくなるように、欧米のリーダーたちに比べて明らかに教養が劣っていれば、次第に相手にされなくなる。対等な関係を構築するためには、自らも豊かな教養を身に付けておかなければならない。
2. 私にも経験があるが、日本人は海外で日本について聞かれ、案外答えられず「勉強しておけばよかった」と後悔したりするものだ。また、ビジネスの場でも、絵画や音楽の話をする事でコミュニケーションがよくなったり、哲学や宗教の素養があることで、信頼されたりすることがある。まずは自国の歴史や文化を学んだ上で、世界の歴史や文化を知ることだ。
3. 教養を身に付けた上で重要なのは専門能力だ。経営者であれば、経営者としての専門能力を持つことが必要である。欧米の経営者は、MBA（経営学修士）や、法律や公共政策の大学院で修士や博士の学位を取得するなど、高い専門能力を身に付けている。
(参考:「日経ビジネス」2018 年 8 月 20 日号)

経営者のための理念・哲学

指導者に必要な徳望と才幹

荒井 桂（安岡正篤記念館副理事長兼館長）

1. 人の上に立って指導的役割を担っていくためには、何よりも先ず自分自身を修め、はじめて人を治めることができるとする東洋教学の伝統的な考え方に依拠せざるを得ない。いまの時代、安岡教学を語り継ぐことの意味も安岡正篤先生が訴えたかったことも、その辺りに帰結するでしょう。
2. 企業や組織、ひいては国家、社会の指導者となる人々に絶えず求められている資格は、その人の徳望と才幹だと言えるでしょう。企業や組織の興亡盛衰を決めるのは人だからです。修己治人の学は詰まるところ、この徳望と才幹を磨くにいかにあるべきかを追究するための学びだと思います。

(参考:「致知」:2018 年 10 月号)

海外事情

80 歳・90 歳でも社会貢献（米国）

藤田 浩之（米国商務省長官顧問など歴任）

1. 米国では定年退職がない。現役を退いたとしても外の世界で顧問やボランティアという立場で若いリーダーの助言・育成役になったり、起業の手伝いをしたりと、80 歳・90 歳になっても精力的に活躍している人が多い。また米国には、寄付行為も含めて社会貢献することが尊敬されるリーダーの責任という風潮がある。
2. 例えば、近所に住む 90 歳のビル・コンウェイ氏は銃物資源活用・開発企業の創業者だ。彼は「他人の意見を静かに聞く能力」が経営者、特に創業者に一番大切だ、とよく私に語る。なぜなら成長している会社の創業者にはどうしてカリスマ性が伴い、下手をすると独裁者になり会社で起こっている問題が見えない「ハダカの王様」になっている危険性があるからだ。

(参考:「We d g e」2018 年 10 月号)

古典に学ぶ

凡人は迷いやすい

(解説) 生まれながらの聖人なら知らぬこと。我々凡人は志を立てるに当たっても、とにかく迷いやすいのが常である。あるいは眼前社会の風潮に動かされ、あるいは一時周囲の事情に制せられて、自分の本領でない方面へ、浮々と乗り出す者が多いようであるけれども、これでは真に志を立てた者とはいわれない。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)